

日本の未来 アフリカの未来

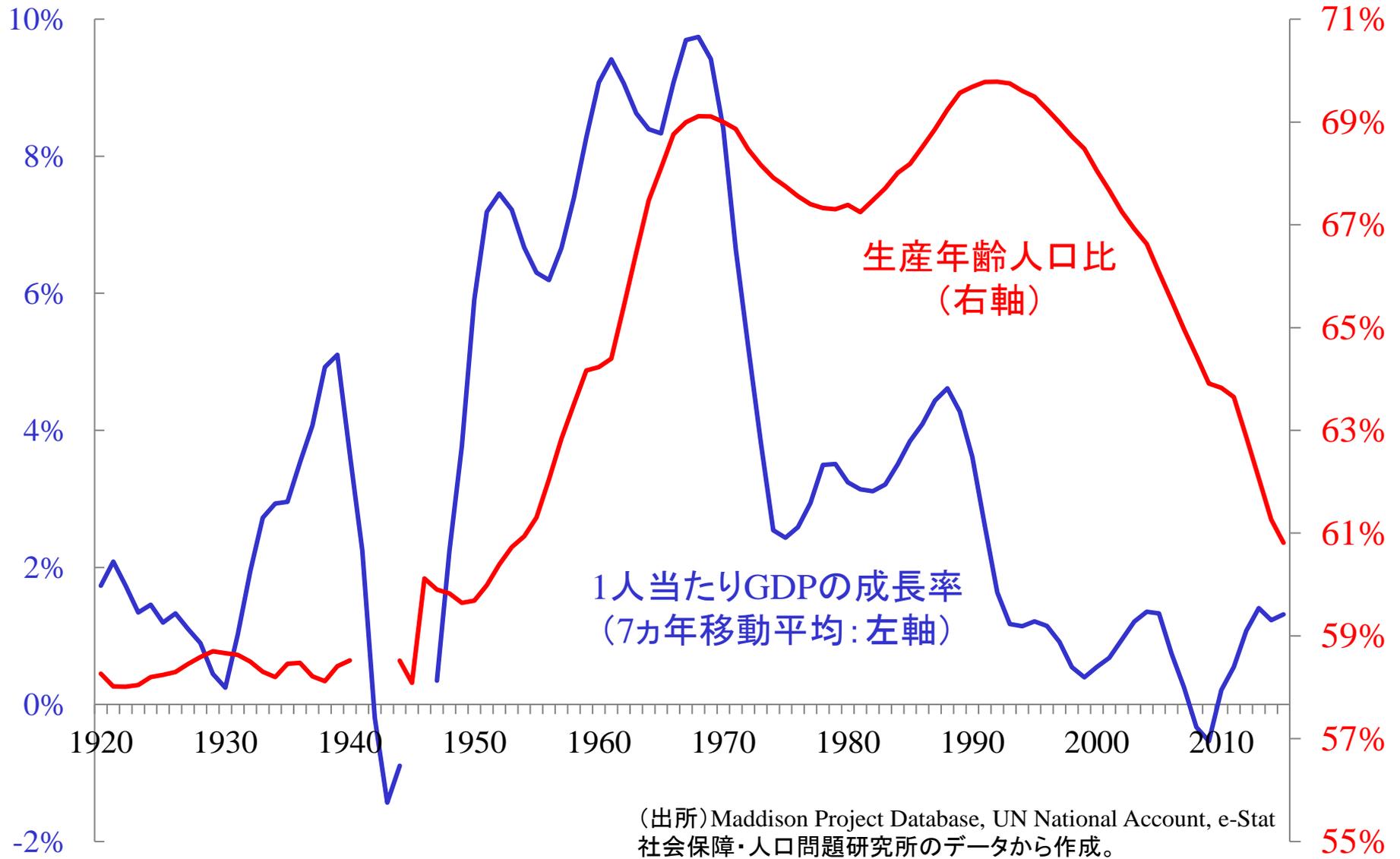
JETROアジア経済研究所

平野 克己

幻想の東アジア開発モデル？

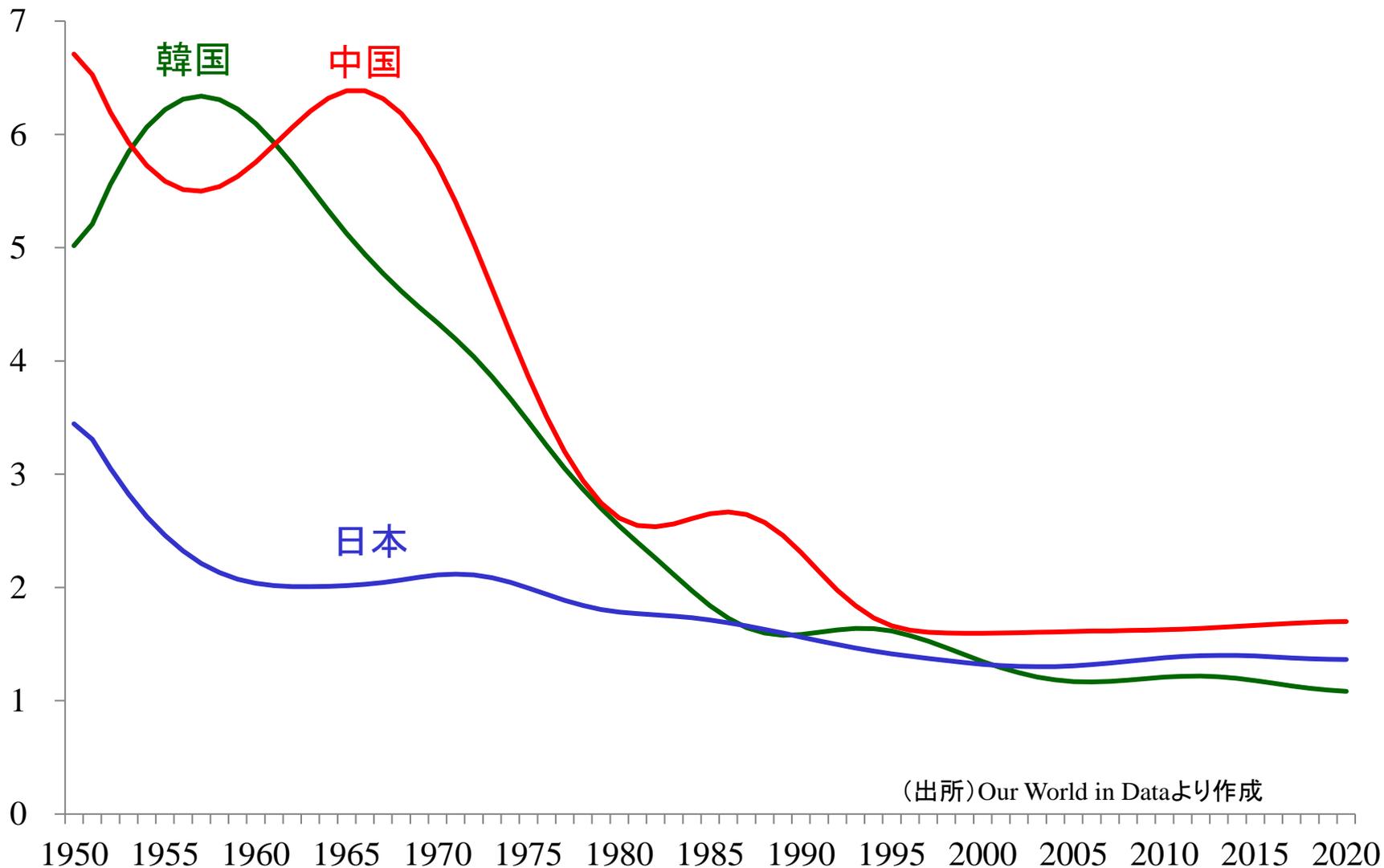
- 唯一の二桁成長モデル→開発マクロ経済学の形成
日本の途上国外交の前提であり national identity
- 特徴：産業政策と行政府重視
議会をもたない中国で完成した
- 強力な人口ボーナスを享受
最大の成功例は移民国家シンガポール
- 日本神話
人口ボーナス下では産業政策が効かない
- 日米対立を経て、最終的には米中対立を生んだ

日本の人口ボーナス



日中韓の合計特殊出生率

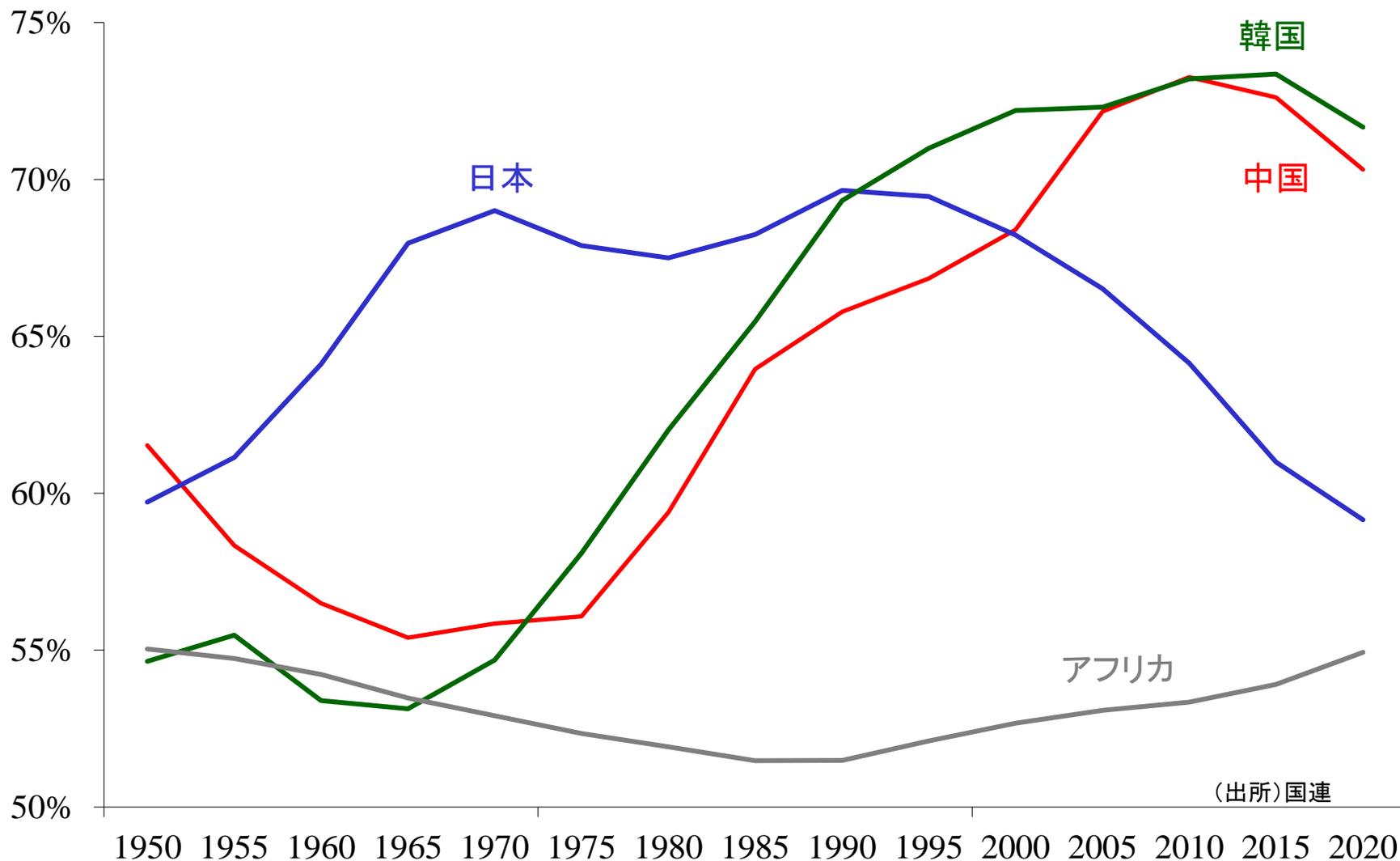
中韓は日本より高い山から下りてきた



(出所) Our World in Dataより作成

中韓も日本と同じ経路を辿るか？

労働年齢層の人口比

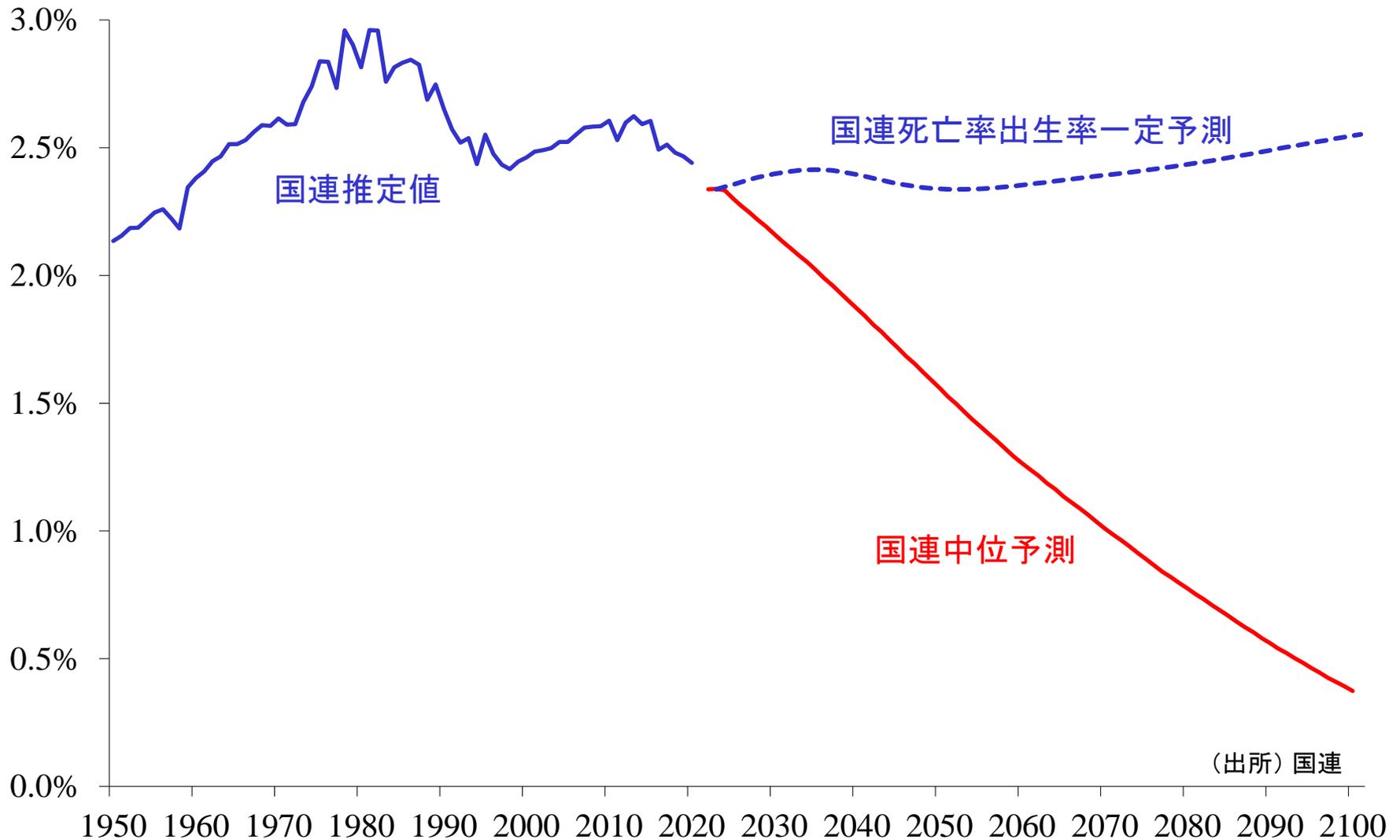


人口革命の謎

- 人類史における一度きりの人口革命
- 人口転換論はおそらく正しくない
出生率関数が分からず、定常人口が見えない
- 日本及び東アジア諸国のみならず、全先進国のTFRは人口置換水準以下である
- 他方、アフリカの出生率は一向に低下しない

アフリカの人口増加率予測

中位予測は当たったためしがない



大衆的一夫多妻制

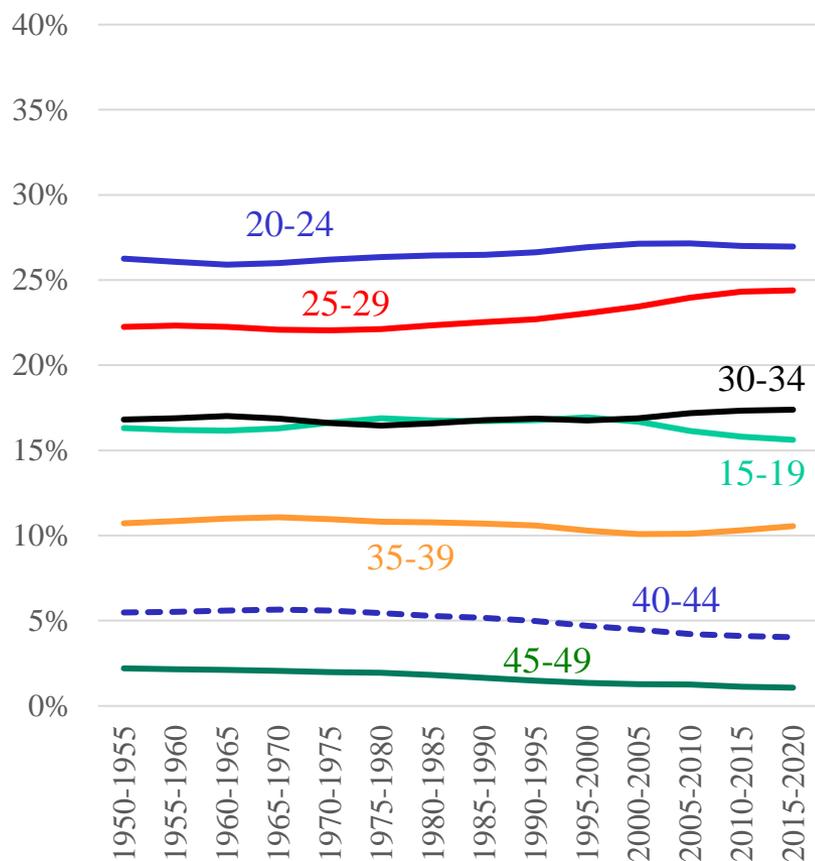
サブサハラアフリカの社会特性

	一夫多妻比率 (%)	18歳未満女性 初婚比率 (%)	15歳以上女性 識字率 (%)	希望子供数	
				夫	妻
ブルキナファソ	42.2	51.6	32.7	7.0	5.8
チャド	38.0	66.9	14.0	13.2	8.6
マリ	37.2	51.5	25.7	8.7	6.2
ニジェール	36.1	76.3	22.6	12.4	9.5
ナイジェリア	30.5	43.5	52.7	7.7	6.6
	女性世帯主 (%)				
エスワティニ	47.9	5.3	88.5	3.6	2.7
エリトリア	46.7	40.7	68.9	7.4	6.3
ナミビア	43.9	6.9	91.4	4.6	3.7
南アフリカ	42.6	3.6	86.5	3.4	2.9
ジンバブエ	40.6	32.4	88.3	4.9	6.0

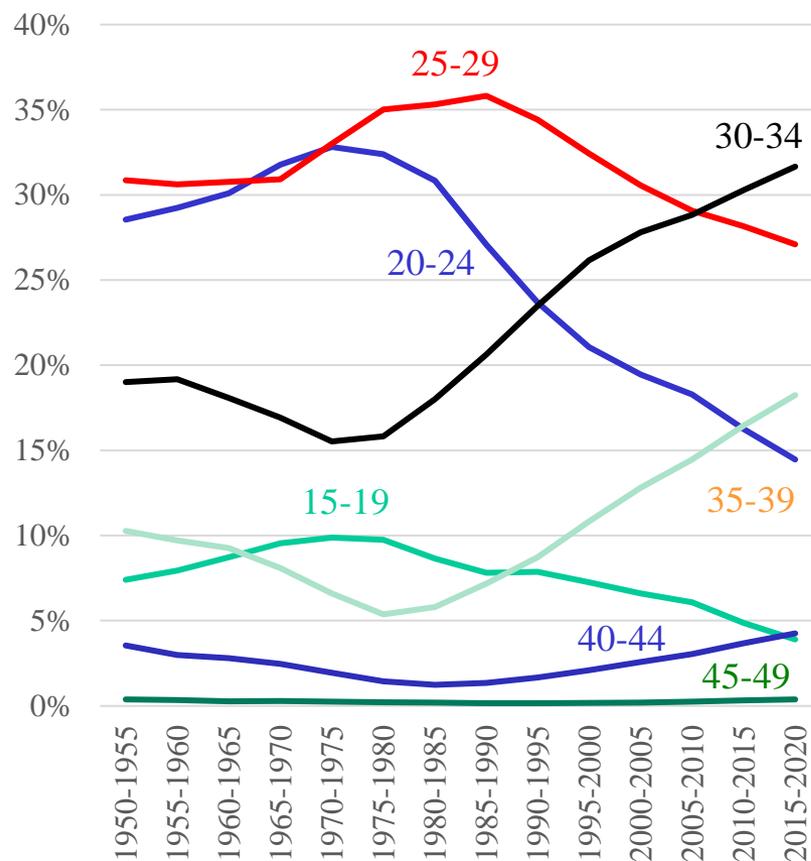
女性年齢層別の出産分布比率

サブサハラアフリカはほぼ無変化

サブサハラアフリカ



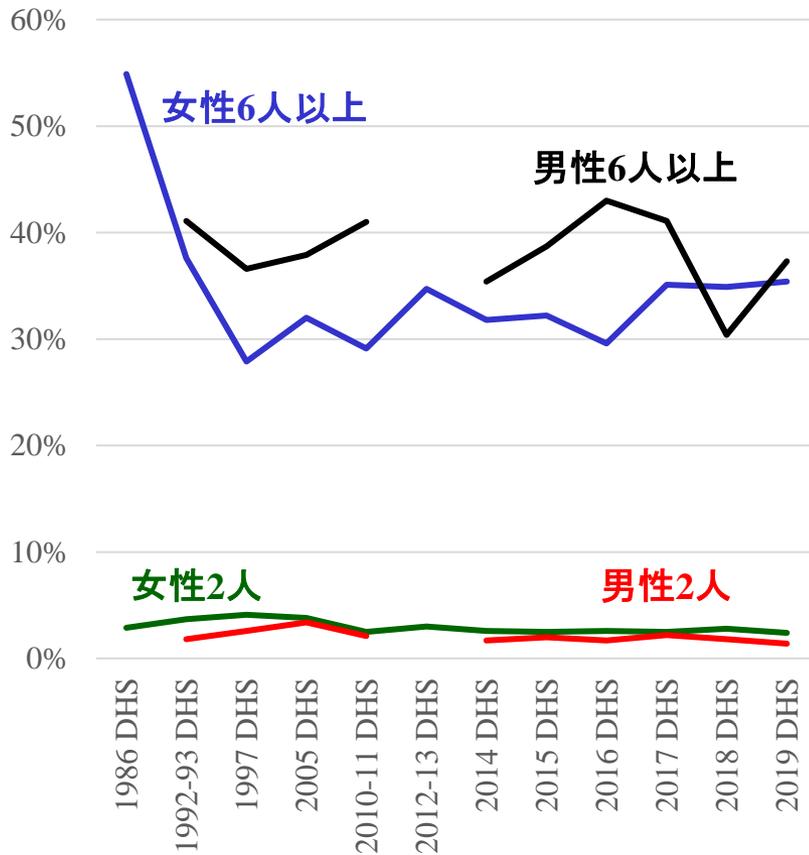
高所得国



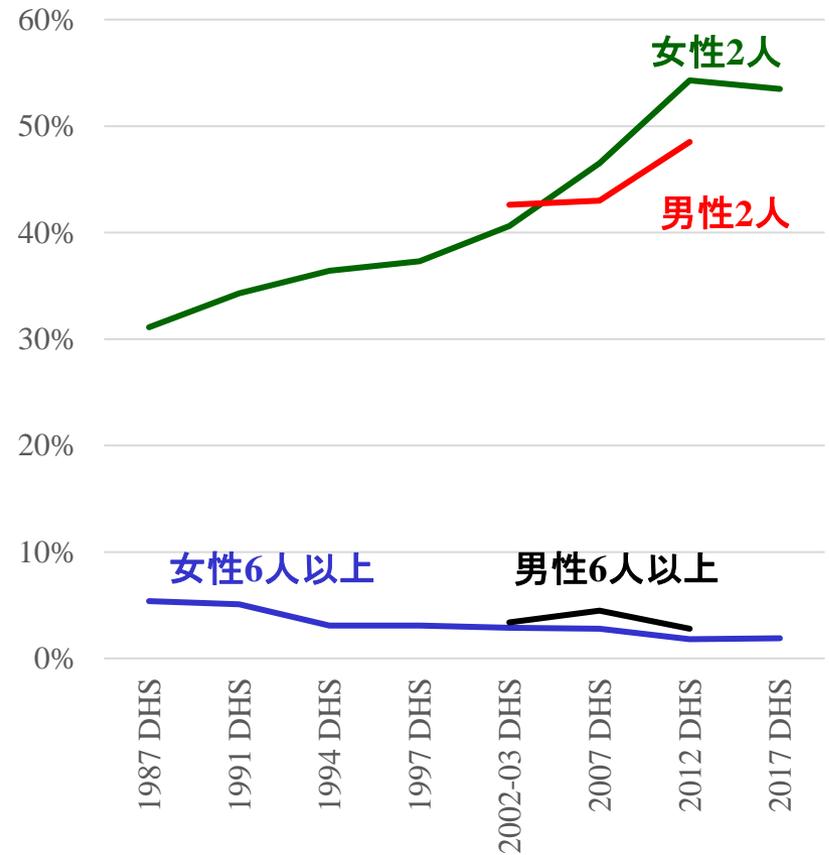
希望する子供の数

セネガルとインドネシア

セネガル

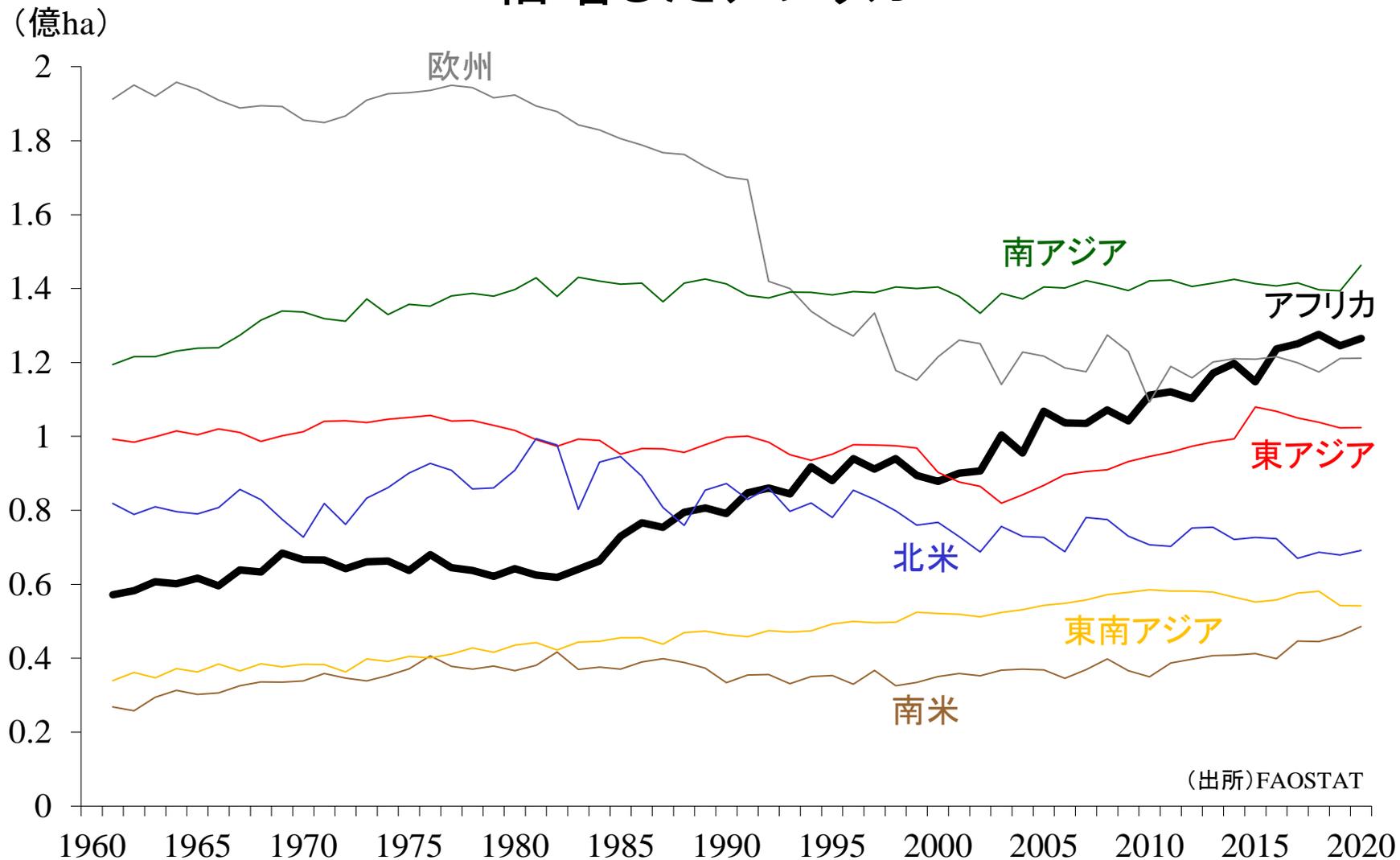


インドネシア



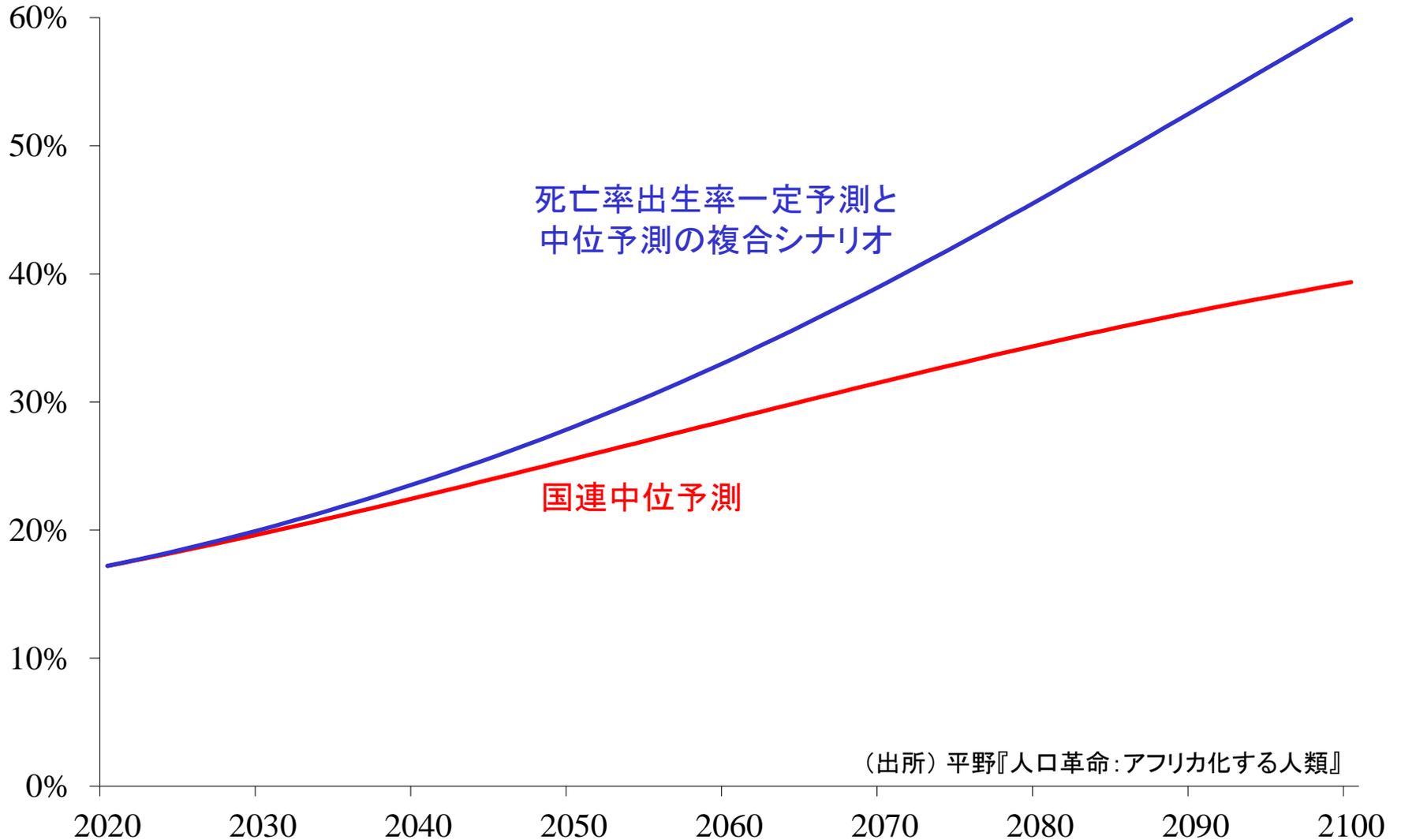
穀物耕作面積

倍増したアフリカ



アフリカが世界人口に占める割合

“人類のアフリカ化”



見えてくる未来

- 出生率は操作できず、操作すべきでもない
人類の分布が再び劇的に変わる
- 東アジア経済の衰退？
- ウクライナ戦争と国際秩序
Global South を支配する没理念的的世界観
日中戦争との類似性
- 米中decoupling
世界経済の分断はコストを払ってでも進む

見えてくる未来

- 曖昧な民主主義、鍵となる自由主義
家族制の揺らぎと解放される個人、特に女性
自由主義 vs 階級社会的な所得格差
- みずからの前途を決められる機能集団
海外売上比率を伸ばし続ける企業だけが成長する
人口減少社会を支える social business

日本の選択

- 人口増依存型企業の衰退
- 中規模国家化に対応する
対外経済活動の能力と範囲を拡張できるか
- 移民を受け入れられるか
cf. 縄文時代晩期になにが起こったか
- 所得格差の拡大を許容できるか
グローバル企業と地域共同体の共存

日本企業の課題

- 民間部門の二極化

グローバル企業を増やせるか

利潤を追わない social business に変身できるか

- 日本の民間部門の欠落部分

BOPビジネス、アグリビジネス、水ビジネス、グリーンエネルギー、インフラシステム輸出

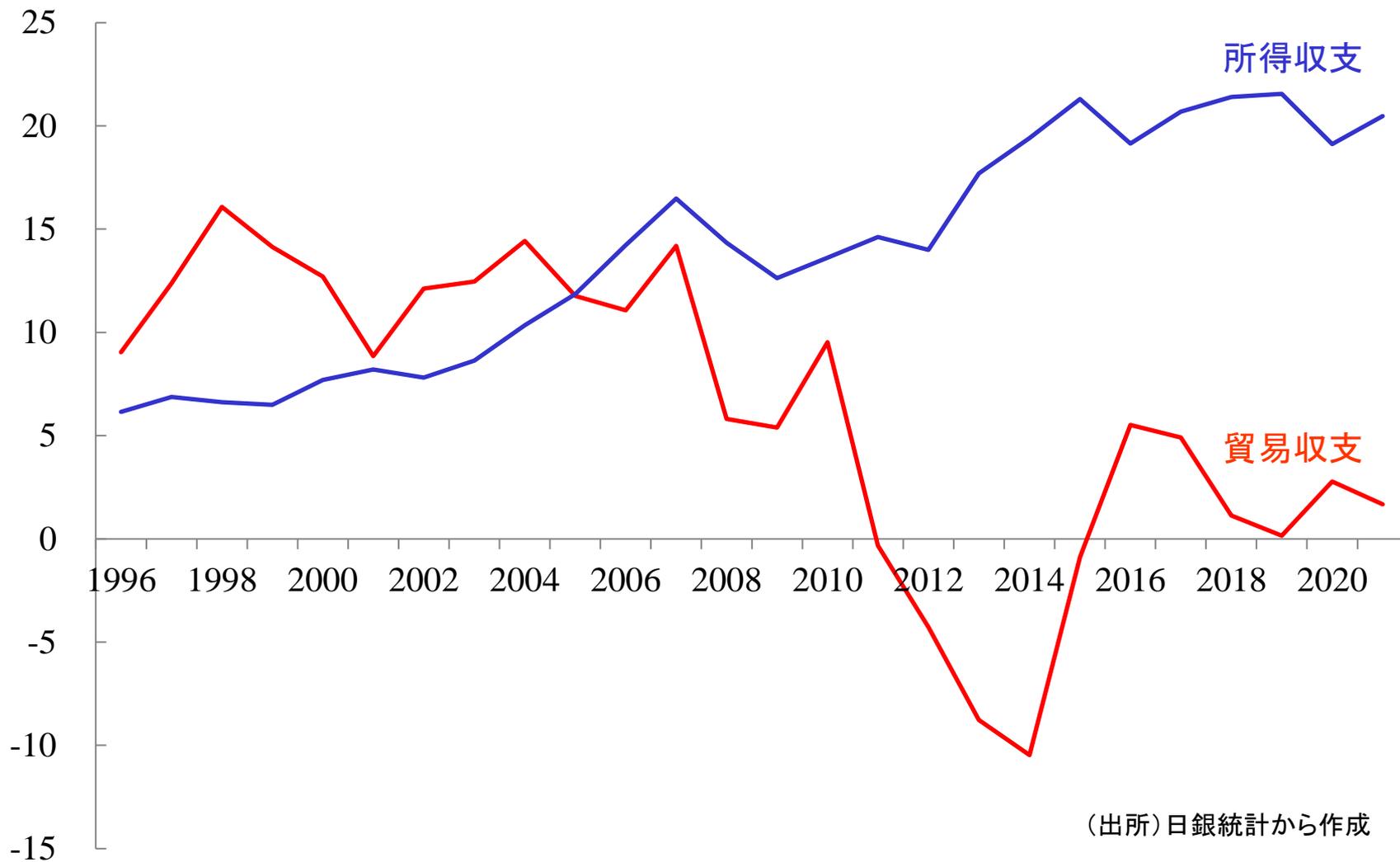
- 投資力の向上

マクロにみれば日本は既に投資立国である

アングロサクソン金融圏との連結

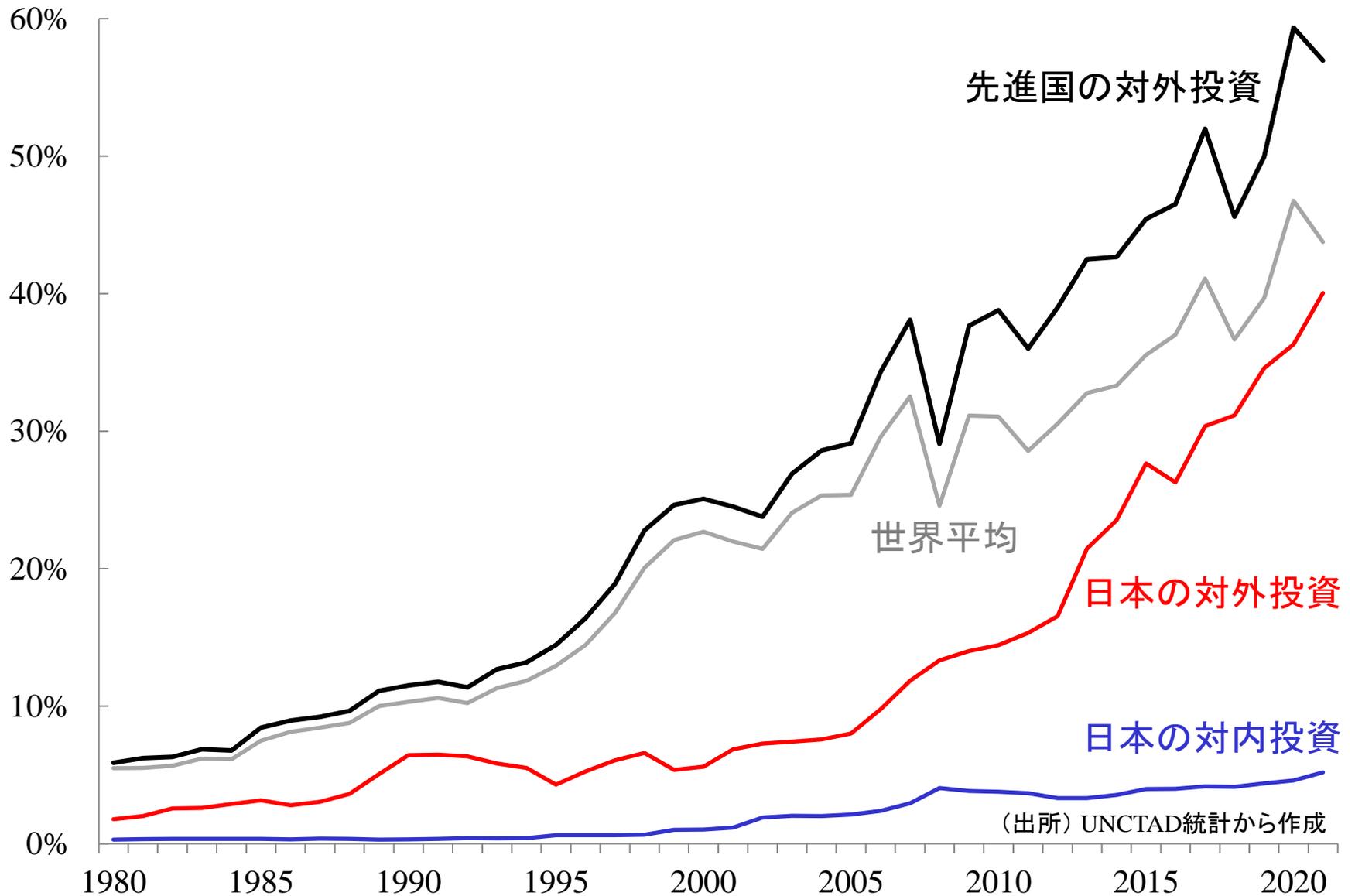
日本の国際収支

(兆円)



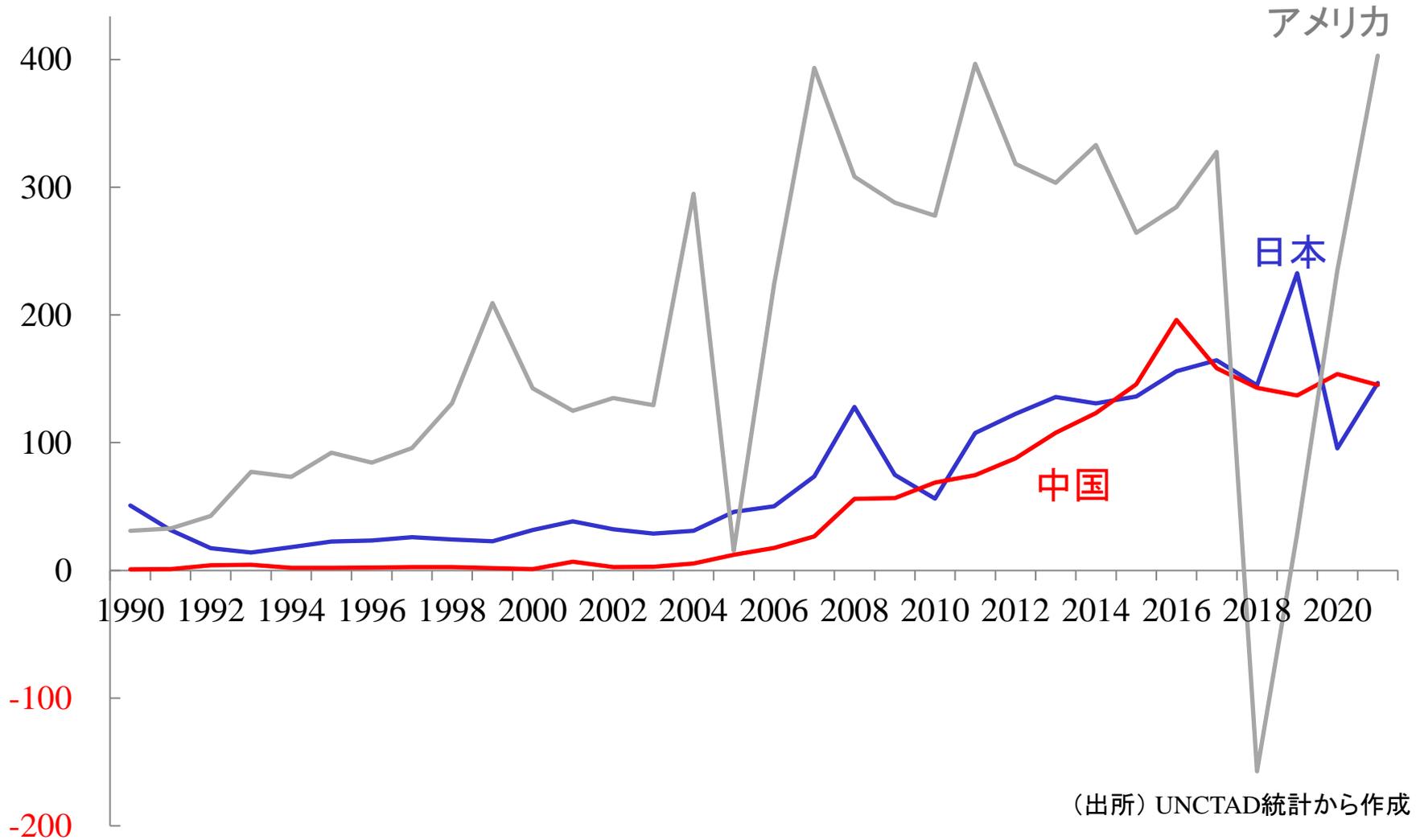
(出所) 日銀統計から作成

FDIストックの対GDP比



日米中の対外直接投資

(10億ドル)

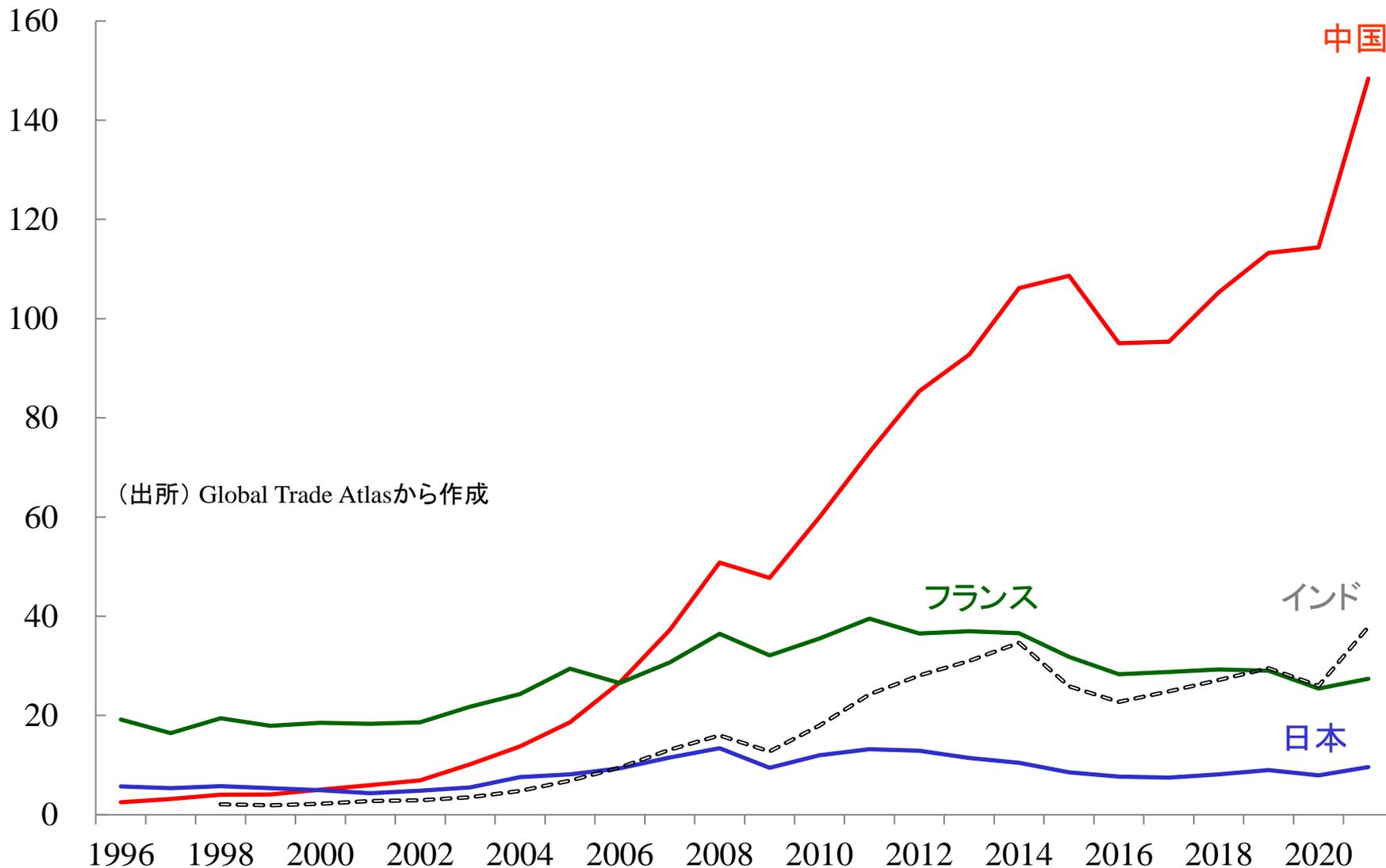


(出所) UNCTAD統計から作成

周辺部から始まる退潮

対アフリカ輸出

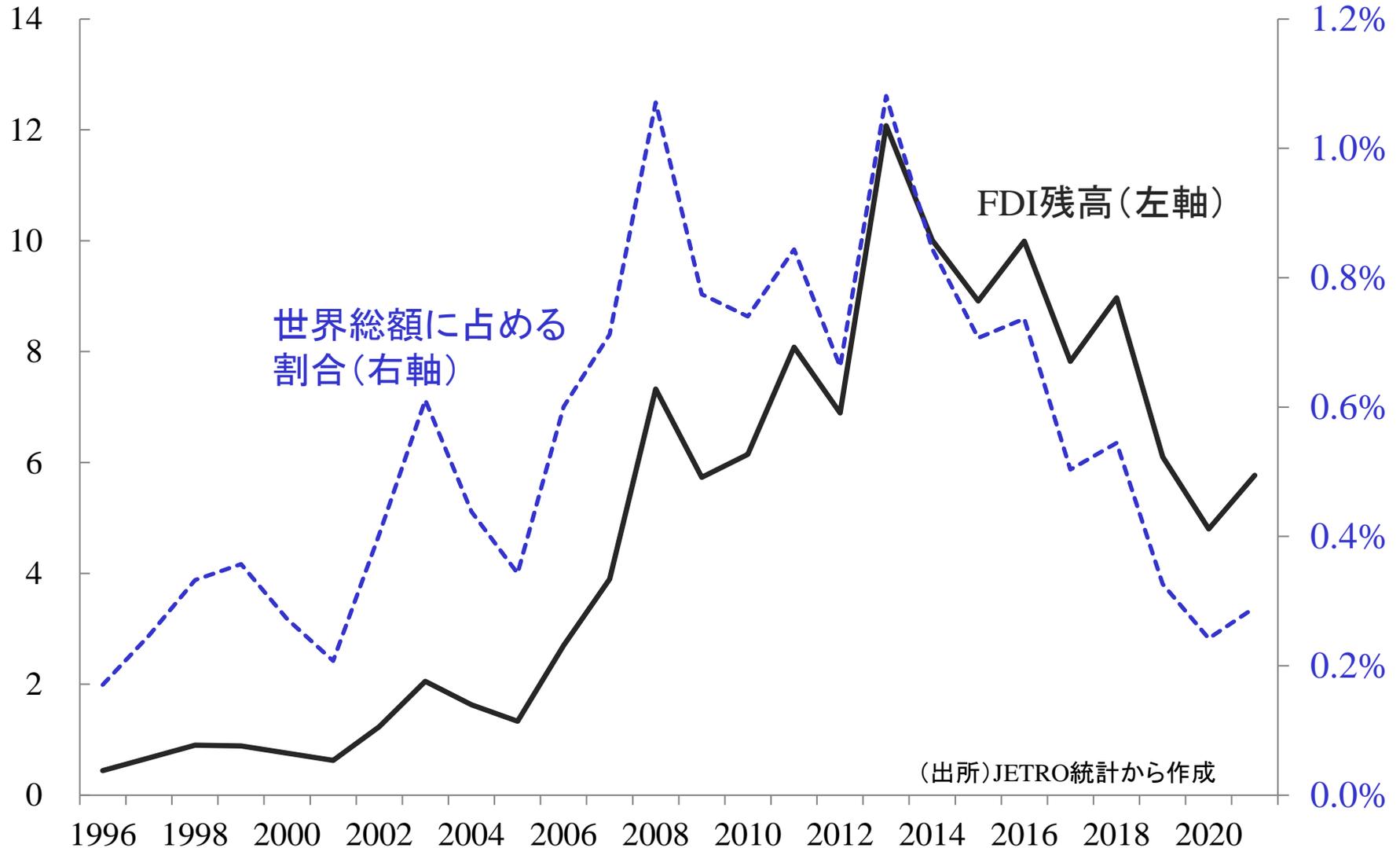
(10億ドル)



周辺部から始まる退潮

日本の対アフリカFDI残高

(10億ドル)



輸出先の配分

(2020, %)

	日本	世界
中国	22.1	11.5
ASEAN	14.4	7.1
アメリカ	18.4	13.5
欧州	12.3	36.7
アフリカ	1.2	2.9

(出所) UNCTAD, JETRO

FDIストックの配分

(2019, %)

	日本	世界
中国	7.0	4.9
ASEAN	14.1	7.4
アメリカ	28.6	26.0
欧州	30.9	36.2
アフリカ	0.3	2.6

(出所) UNCTAD, JETRO

グローバル企業のアフリカ展開

- 輸出
機械類、石油製品、医薬品、食品、北アフリカ市場
- 欧米資源企業 ⇒ 再生可能エネルギー
- ビジネス金融サービス ⇒ 銀行、PEF
- 通信 ⇒ 携帯電話プロバイダー
- 建設業
- 旺盛なクロスボーダーM&A
- カントリーリスクを越境市場で分散する

日本の貿易投資

- 国内志向が強く、国内市場に依存してきた
- 日本の貿易依存度は低く、輸出力に劣る
- ASEANと米国に益々偏っていく
- したがって人口減少が始まると成長が止まり、老齡化が進行してイノベーションも止まった

一次産業の停滞と途上国化

- 対外投資は近年急速に伸びているが未だ世界平均に及ばず、対内投資は低迷している

日アフリカ経済関係

- 自動車産業に集中、依存している
- 新しいビジネス機会を逃し、対アフリカ貿易投資における日本のプレゼンスは縮小の一途
- それは日本経済全体の退潮と同期している
- つまり、この衰退は**日本の問題、日本企業の問題**であってアフリカの問題ではない

アフリカ経済の特性

- 南アフリカ民主化を契機に、企業のプレゼンスが大きくなった
- 経済と政府が分離している
- アフリカ経済は国民経済の集合体というより市場の集合体であり、国家単位のマクロ経済より商品別の**ミクロ経済**が重要である
- 市場は企業によって開拓され、人口増加とともに拡大してきた：**BOPビジネス**
- そのなかでアフリカ内外の企業が、ダイナミックで実験的な経営を展開している

アフリカ市場の特性

- アフリカの二重経済
百万人単位の富裕層・中間層 vs 数億人単位の農村・半農村人口
- 市場を知悉しているのは政府ではなく越境企業
- 少数富裕層市場へのアクセス⇒教育、医療
- 年2.5%で着実に拡大する FMCG市場
BOPビジネス⇒ロジスティクス、fintech

Investor Japan

- 「ものづくり」神話から投資国へ
日本には世界最大の年金基金とVCがある
世界から利益をとる＝global portfolioの実現
- 日の丸に拘らない、日本人に拘らない
既存のビジネスネットワークに入り込む
グローバル人材の獲得⇒給与水準の国際化
- 円の価値を活用し、維持する

日本が望む国際社会とは

- 世界は危険なところである
- 階級イデオロギーではない自由主義
- 中国との違い
- 所得格差の拡大を許容できるか
- 人権思想に基づいた国際レジームに矛盾せず、
貢献できる日本
- ex. 移民政策、ジェンダー
- そのなかに膨張するアフリカ人を抱擁する